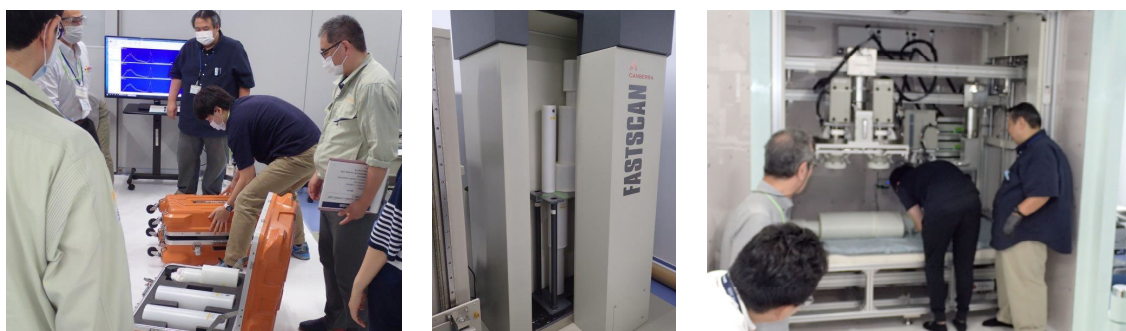


ホールボディカウンター（WBC）研修 募集要項

1. 研修の目的と概要

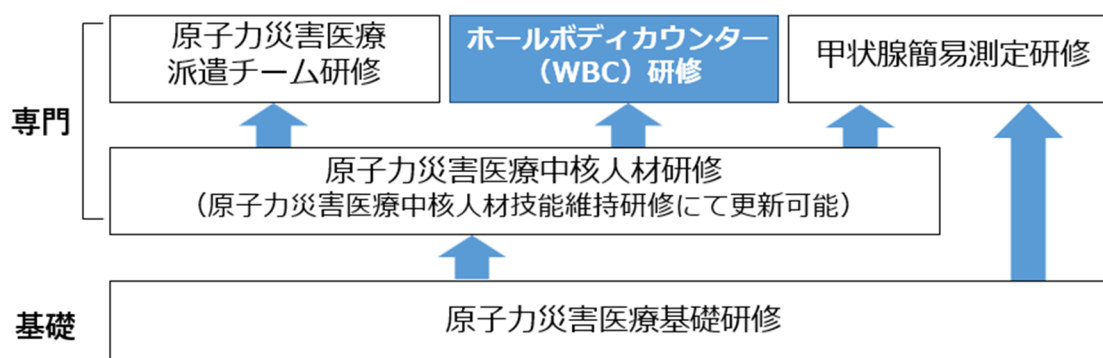
本研修は令和 8 年度 原子力災害対策事業費補助金（原子力災害医療実効性確保事業）の一環として、量子科学技術研究開発機構（QST）が年 3 回開催する専門研修です。

本研修では、原子力災害発生時の医療拠点となる病院（原子力災害拠点病院 等）において、被ばく線量の推定・測定・評価を行う人材を育成することを目的としており、ホールボディカウンターや周辺機器類の管理を行う方を対象に、それらの機器の操作、測定、データ処理及び校正法など、内部被ばく検査や線量測定と評価に必要な高度で専門的な技術と知識の習得を目指します。また、講義のほか、ホールボディカウンターをはじめとした関連実機を用いた実習も行います。



原子力災害医療研修体系

2021 年度（令和 3 年度）より基礎、専門、高度専門へとステップアップして受講する新たな原子力災害医療研修体系（新体系）となりました。



2. 募集人数および研修期間

募集人数 10名/回

研修期間 第1回 令和8年8月18日(火)
第2回 令和8年10月27日(火)
第3回 令和9年1月7日(木)

3. 対象者

以下の①、②両方を満たす方。

- ① 原子力災害拠点病院及びその候補病院において、被ばく線量の推定・測定に従事し、ホールボディカウンターと周辺機器類の管理を行っている方、及びこれから行う方。
- ② 次にあげる、いずれかの研修を受講修了し有効期限内の修了証を有する方。
 - ・原子力災害医療中核人材研修または原子力災害医療中核人材技能維持研修
 - ・ホールボディカウンター研修

4. 実施場所

量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所 研修棟

〒263-8555 千葉県千葉市稲毛区穴川 4-9-1 [交通のご案内](#)



5. 研修科目

時間表参照。

研修講義にかかる原子力災害医療研修のテキストについて、以下の URL からダウンロードができます。

<https://www.qst.go.jp/site/nirs/nuclear-emergency-medicine-text.html>

6. 受講料

無料。

7. 交通費・宿泊費について

- QSTの旅費規程に従い交通費及び宿泊費を支給いたします。旅費支払いに関する情報、研修日程等受講に必要な諸事項を示した書類は、受講決定後にお知らせいたします。
- 交通機関や宿泊施設のご予約については、送付された書類をよくご確認ください。

8. 申込要領

申込期間 第1回 申込締切日 令和8年7月17日(金)
第2回 申込締切日 令和8年9月25日(金)
第3回 申込締切日 令和8年11月27日(金)

申込方法

ポータルサイトより申し込んでください。(「[入力操作の手引き](#)」参照)



9. 受講決定通知

- 研修開始日の 2 週間前までに所属長及び本人宛の結果をメールで通知します。応募者多数の場合には受講者数を調整させて頂く事があります（受講決定は先着順ではありません）。受講決定通知が届かない場合は問合せ先までご連絡ください。
- 受講決定者には経費支払に関する情報及び書類、研修日程など受講に必要な諸事項を送付します。
- 受講決定後でも社会通念上相当とする理由がある場合は研修の取りやめ、受講決定取り消し、受講辞退受付の場合があります。

10. 問合せ先

〒263-8555

千葉県千葉市稲毛区穴川4丁目9番1号

量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所

原子力防災推進部 人材育成・研修課

電話（直通）：043-206-3122

E-mail：hibaku-training@qst.go.jp

個人情報の取り扱いについて

申込に際して御記入いただきました氏名、住所、口座番号等の個人情報は、当機構の個人情報保護規程に基づき厳重に取り扱い、原子力災害対策指針に基づく原子力災害時における医療体制等の整備に向け、本研修の受講記録として管理・保管すること及び、下記の利用目的以外では一切使用致しません。

- ① 原子力施設立地・隣接道府県、原子力規制庁、高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センターからの受講記録照会のため
- ② 受講者への連絡のため
- ③ 講師への情報提供のため
- ④ 研修終了後のフォローアップのため
- ⑤ その他研修業務の遂行のため

※被ばく医療研修ポータルサイトのサイトポリシーもご参照ください。

令和8年度 ホールボディカウンター研修 時間表

第1回：令和8年8月18日（火）

第2回：令和8年10月27日（火）

第3回：令和9年1月7日（木）

時 間		講義タイトル	内容
9:00 - 9:15	0:15	開講式/ガイダンス	
9:15 - 9:45	0:30	線量評価の概念 原子力災害医療の概要と線量評価の重要性	被ばく医療の基礎と原子力災害時医療体制の概要を理解する。医療の側の視点で見た線量評価の重要性と必要性を理解する。
9:45 - 10:35	0:50	体外計測法 ホールボディカウンター（WBC）測定及び線量評価	ホールボディカウンター（WBC）測定に基づく内部被ばく線量評価及び線量測定に関する基礎事項を確認する。
10:35 - 10:45	0:10	休憩	
10:45 - 11:25	0:40	話題提供 【話題】福島県内での住民のホールボディカウンター（WBC）測定：現状と課題	東電福島第一原発事故以降、福島県を中心にこれまでに行われてきた住民のホールボディカウンター（WBC）測定の概要と見出された諸課題について情報提供をする。
11:25 - 12:15	0:50	昼食	
12:15 - 12:25	0:10	移動	
12:25 - 14:50	2:25	実習 ホールボディカウンター（統合型 WBC）	BOMAB ファントムを用いてホールボディカウンター（WBC）の校正を行う。
14:50 - 15:00	0:10	移動	
15:00 - 16:00	1:00	実習 内部被ばく線量の計算	MONDAL3（放医研開発計算ソフト）を使用して内部被ばく線量の計算問題を解く。
16:00 - 16:15	0:15	閉講式	

注1) プログラムは随時見直されていますので、若干の変更があることをお含みおきください。

注2) 実習は予定時間より延びることがありますので、あらかじめご承知おきください。